

刈谷市概要：次元を超えたまちデザイン「メタかりチャレンジ」

課題認識

- ・アフターコロナにおいて社会経済活動が活発化・デジタル技術も急速に発展している中で、刈谷市では「にぎわい」を重要なキーワードとして位置付け
- ・刈谷駅周辺はビジネス客がターゲットの「飲み屋街」イメージが先行し話題性に乏しい。イベントも一過性のものが多く「にぎわい」をいかに推進していくかが課題

目指す姿

- 新たな「にぎわい」の獲得には、若者世代への訴求が重要
- デジタル側の施策が効果的で情報拡散力にも期待
 - 非日常のデジタルフィールドで活性化を促し、現実側へフィードバック



実証イメージ

- ・若者世代中心の「デジタルコミュニティ」を創設
 - ・デジタルフィールドでのにぎわい創出を議論する「デジタルワークショップ」を開催
- デジタルネイティブが本当に楽しいと思うデジタルフィールドを創りあげる
- SNSなどで情報拡散し、まちへの関心とにぎわい創出につながる心象変化を検証

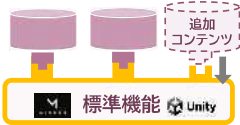


用いる技術やサービス

リアルな刈谷市を再現する軽量フィールドの構築



世界が広がるプラグインコンセプトの採用



自動車産業の街としてのモビリティ関連コンテンツの配置



親しみやすくデフォルメ化されたオリジナルアバターによる散策



体制



将来性

- ・広告宣伝や交通安全教育、混雑・渋滞シミュレーションなどのコンテンツ追加提案
- ・マルチデバイス対応でVR/MRゴーグルを利用し、更にリアルな体験を可能に
- ・広がる世界とマルチOS対応で利用者を拡大し、持続性と収益性を追求